

「第3次広島市食育推進計画」 中間まとめ 概要

第1 計画の基本的事項

- 1 計画策定の趣旨**
平成23年(2011年)8月策定の「第2次広島市食育推進計画」(現計画)の理念等を継承しつつ、今後の食育に関する取組を計画的に進める。
- 2 計画の位置づけ**
食育基本法第18条第1項に規定する市町村食育推進計画
特に、本市の健康づくり計画「元気じゃけんひろしま21(第2次)」とも整合を図り、効果的に取り組む。
- 3 計画期間**
平成28年度(2016年度)から平成32年度(2020年度)までの5年間

第2

- 1 これまでの取組状況**
 - 「食と健康」「食と生活」「食と地域」の3つの視点から重点課題を掲げ推進
 - 本市(行政及び学校・幼稚園・保育園等)が関わる食育推進プログラム 延べ160件を実施
 - ひろしま食育ネットワークによる食育推進プログラム 延べ378件を実施
 - ひろしま食育ネットワーク参加団体の拡大(H22年度末69団体→H27年6月末現在102団体)
 - 食育推進の担い手が、食育の実施主体となり多様な形で推進
 - 産学官連携による積極的な食育活動の展開
 - 食育に関する情報発信や情報共有の場の設定

2 現況・課題

(1)「取組を評価するための指標」の達成状況

※指標10項目のうち主なものを抜粋

評価項目	目標数値	結果数値	性別・年代別等の状況
「わ食」の実践度	「和食」の実践度	80%以上	69.6% ・30歳代男性、20歳代女性が最も低い。 ・ひとり暮らし世帯の実践度が低い。
	「輪食」の実践度	80%以上	70.5% ・男女とも20歳代が最も低い。 ・ひとり暮らし世帯の実践度が低い。
	「環食」の実践度	80%以上	78.6% ・30歳代男性のみ割合が低い。 ・ひとり暮らし世帯の実践度が低い。
衛生に関する実践度	90%以上	94.1%	・15～19歳男性のみ割合が低い。 ・世帯構成ごとの差はない。
朝食の摂取状況	85%以上	20歳代男性 76.5% 30歳代男性 62.5%	・30歳代男性、20歳代女性が最も低い。 ・世帯構成ごとの差はない。
よく噛んで味わって食べる食生活の実践度	80%以上	58.1%	・30歳代男性、50歳代女性が最も低い。 ・二世帯世帯で実践度が低い。
学校給食における地場産物の使用割合	30%以上	36.5%	(H26年度 学校給食栄養報告結果)

(市民意識「健全な食生活を実践する市民の割合」)

評価項目	目標数値	結果数値	性別・年代別等の状況
健全な食生活の実践度	80%以上	66.2%	・男女とも30歳代で最も低い。 ・ひとり暮らし世帯の実践度が低い。

(2)「ふだんの食生活で心がけていること」(「食育に関する調査」結果による)

※調査項目を3つの「わ食」の視点で整理

わ食	調査結果(全体平均)	性別・年代別等状況
和食	・栄養バランスへの配慮(71.9%) ・規則正しく食べることへの意識(55.0%)	・いずれも男性の実践度が低調。 ・20歳代男女、30歳代男性が特に低い。
輪食	・食事の前後のあいさつ(40.0%) ・食材や作った人への感謝(29.5%) ・行事食(17.4%)や郷土料理(5.1%)への意識	・いずれも男性の実践度が低調。 ・あいさつについては、60歳以上の男性、感謝については、20歳代男性で特に低い。 ・行事食や郷土料理への意識は、全世代で低い。
環食	・食材を無駄なく使うことへの意識(43.0%) ・食べ残さないことへの意識(67.4%) ・旬の食材(50.4%)や地産地消(22.2%)への意識	・食べ残さないことへの意識以外については、いずれも男性の実践度が低調。 ・旬の食材、地産地消への意識については、30歳代男性で特に低い。

食をめぐる現状と課題

第3

1 基本方針 (現計画を継続)

(1) 基本理念

食を通じて「健やかな体」と「豊かな心」を育みます。

(2) 目標

健全な食生活を実践する市民を増やします。

(3) 評価指標

「健全な食生活を実践する市民の割合」目標値(平成32年度)80%以上

2 計画の推進

(1)「わ食(和食・輪食・環食)」の推進

○現計画下での取組を基盤にした上で、現状と課題を踏まえ「わ食」に重点化して取り組む。

(2)生涯にわたる間断ない食育の推進

○性別、年代別、世帯構成別等の課題を踏まえて具体策を検討し、乳幼児から高齢者に至るまで、様々な機会、場面を捉えて生涯にわたる間断ない食育の推進に取り組む。

○子どもへの食育の重要性を踏まえ、また子どもへの食育が家庭にもたらす効果を期待し、学校や幼稚園・保育園における教育・保育の様々な機会を捉え、積極的な食育に取り組む。

(3)官民一体となった効果的な食育の推進

○ひろしま食育ネットワーク参加企業の拡大・発展により、官民一体となった効果的な食育を推進する。

○県や広島広域都市圏内市町との情報共有を一層促進し、連携する。

3 具体的な取組

(1)「和食」の推進

① 目指す方向

栄養バランスのとれた日本型食生活の推進

② 主な施策展開

ア 栄養バランスに配慮した食生活の推進

イ 健康的な食べ方(規則正しく食べる、よくかんで味わって食べる等)の実践に向けた取組の推進

(2)「輪食」の推進

① 目指す方向

食卓を囲む家族等との団らんの推進

② 主な施策展開

ア 家族等で食卓を囲む機会(食事のマナー、感謝の気持ち等)を増やす取組の推進

イ 食文化の伝承など「食」を契機とした地域振興・地域交流の促進

ウ 農林水産業や地産地消等の重要性を理解し実感する活動の促進

(3)「環食」の推進

① 目指す方向

環境に配慮した食生活の推進

② 主な施策展開

ア 食品や食材の廃棄を減らす取組の推進

イ 広島の食材や郷土料理を普及する取組の推進

(4)性別・年代別等の課題やニーズに応じた取組の推進

特に食育への関心や食育に関する取組の実践度が低調な「男性」や「20～30歳代の若い世代」への効果的な取組を積極的に展開

(5)食育推進の担い手間の相互連携、官民連携の一層の充実

ひろしま食育ネットワーク参加企業の相互連携の強化による広島らしい食育を推進
地産地消等、広島広域都市圏内の連携強化

【重点プログラム】※重点プログラムは、「2計画の推進」を踏まえ、(1)～(3)の視点から検討し、市民意見等も踏まえ、最終まとめまでに確定する。

健全な食生活を実践する市民を増やす(現状値:66.2%→目標値:80%)